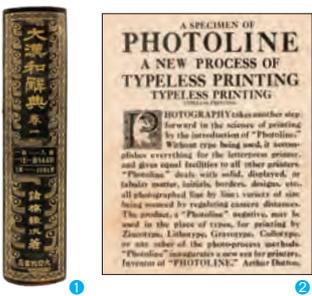


一大事件とは何ぞ、全く写真だけで、金属活字なしに日本文字を植える機械が、殆んど完成に近く、試験用の機械も既に組み立てられ、立派な成績をあげて居ることである。

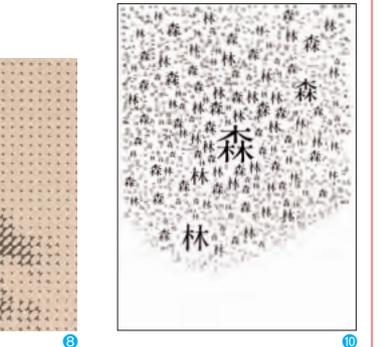
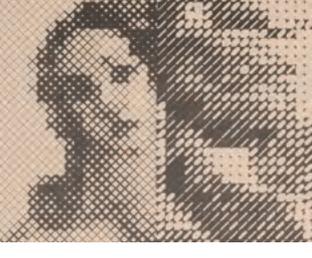
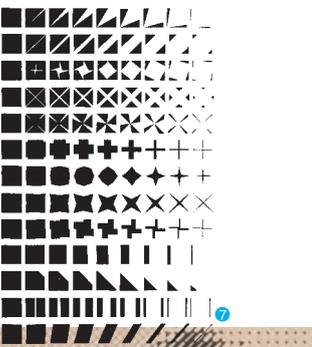
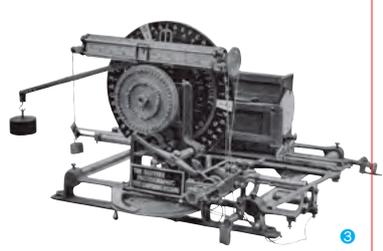
——邦文寫真植字機始と完成——印刷雜誌「八巻十号 印刷雜誌社 一九三五年」

現在のようにデジタルフォントが用いられる以前は、印刷文字は活字か写真植字が主流でした。中でも、日本語においては膨大な金属活字を用いる活版印刷に代わって、写真工学的な原理を使って印字する写真植字が登場したことは、活版印刷の煩雑さを解消する画期的な出来事でした。写真植字はその利便性によって職場環境の改善をもたらしました。さらに、多くの美しい書体の開発が容易になり、多様な書体が印刷を彩るようになります。

写真植字の発明から一〇〇年を記念し、活版印刷からデジタルフォントへと文字印刷の技術的、表現的な橋渡しを担ったこの写真植字について、その歴史、役割、仕組み、さらには書体デザインについて紹介します。



- ①『大漢和辞典』(大修館書店) 1955年
- ② Photoline 印字見本 (『Penrose's Annual』 Vol.23より) 1921年
- ③ The Bawtree photographic type-composing machine (『Penrose's Annual』 Vol.26より) 1924年
- ④ レンズによる文字大小の変化(十八種) (『書窓 11』第2巻第5号より) 1936年
- ⑤ リウミン原図 モリサワ蔵
- ⑥ 文字盤 中ゴシックBB1原盤 1955年頃 モリサワ蔵
- ⑦ ディントン—数値分析データの図化の多様性をめざすパターン群(『グラフィックデザイン』43より) 1971年
- ⑧ ディントンによる作例 1970年頃
- ⑨ PAVO文字盤 ナールD DNAR
- ⑩ 山城隆一「森林」ポスター 1955年
- 所蔵先表記のない資料は印刷博物館所蔵



【関連イベントのご案内】

※いずれにイベントも企画入場料のみでご参加いただけます
 ※詳細は印刷博物館のWebサイトでご確認下さい

講演会「写植発明の歴史——メディア、言語、社会」
 講師—阿部卓也(愛知淑徳大学創造表現学部准教授)
 日時—10月26日 国会場 15:00~17:00 / オンライン配信 15:00~16:30
 ※会場では講演会終了後講師と担当学芸員が実物の資料を交えてお話しします
 会場—印刷博物館研修室(地下1階) / オンライン配信
 定員—会場 80名 先着順(事前予約制)

写真植字機デモンストレーション「MC-6型(2024)」
 講師—村辻博見(株式会社モリサワ)、長谷川昌紀(株式会社モリサワ)
 日時—11月16日 日 11:00~11:30、13:30~14:00
 11月30日 日 11:00~11:30、13:30~14:00
 場所—印刷博物館企画展内「MC-6型(2024)」展示前
 定員—各回 20名 先着順(当日会場受付)
 参加者の中から当日会場での抽選で、MC-6型(2024)での印字体験ができます

学芸員によるギャラリートーク
 日時—9月28日 日 15:00~
 10月12日 日 15:00~
 集合場所—印刷博物館企画展入口
 定員—各回 20名 先着順(当日会場受付)

交通のご案内

- 江戸川橋駅——東京メトロ有楽町線(4番出口)より右へ徒歩約8分
- 飯田橋駅——JR総武線(東口)、東京メトロ有楽町線、東西線、南北線、都営地下鉄大江戸線(B1出口)より徒歩約13分
- 後楽園駅——東京メトロ丸の内線、南北線(1番出口)より徒歩約10分
- 都営バス[飯64]—九段下~飯田橋駅~小滝橋車庫 / [大曲][東五軒町]下車徒歩約3分
- 都営バス[上69]—上野公園~春日駅~小滝橋車庫 / [大曲][東五軒町]下車徒歩約3分
- 文京区コミュニティバス[B-ぐる] 目白台・小日向ルート「トッパンホール 印刷博物館」下車徒歩約3分

※TOPPAN小石川本社ビル地下駐車場をご利用いただけます(有料)。

お問い合わせ先：印刷博物館
 URL <https://www.printing-museum.org/>
 TEL 03-5840-2300(代) FAX 03-5840-1567
 〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3 TOPPAN小石川本社ビル

